資 料 2

気仙沼市震災遺構（旧気仙沼向洋高校）保存整備に係る調査

現地調査状況

平成 26 年 11 月 19 日

株式会社 丹青社

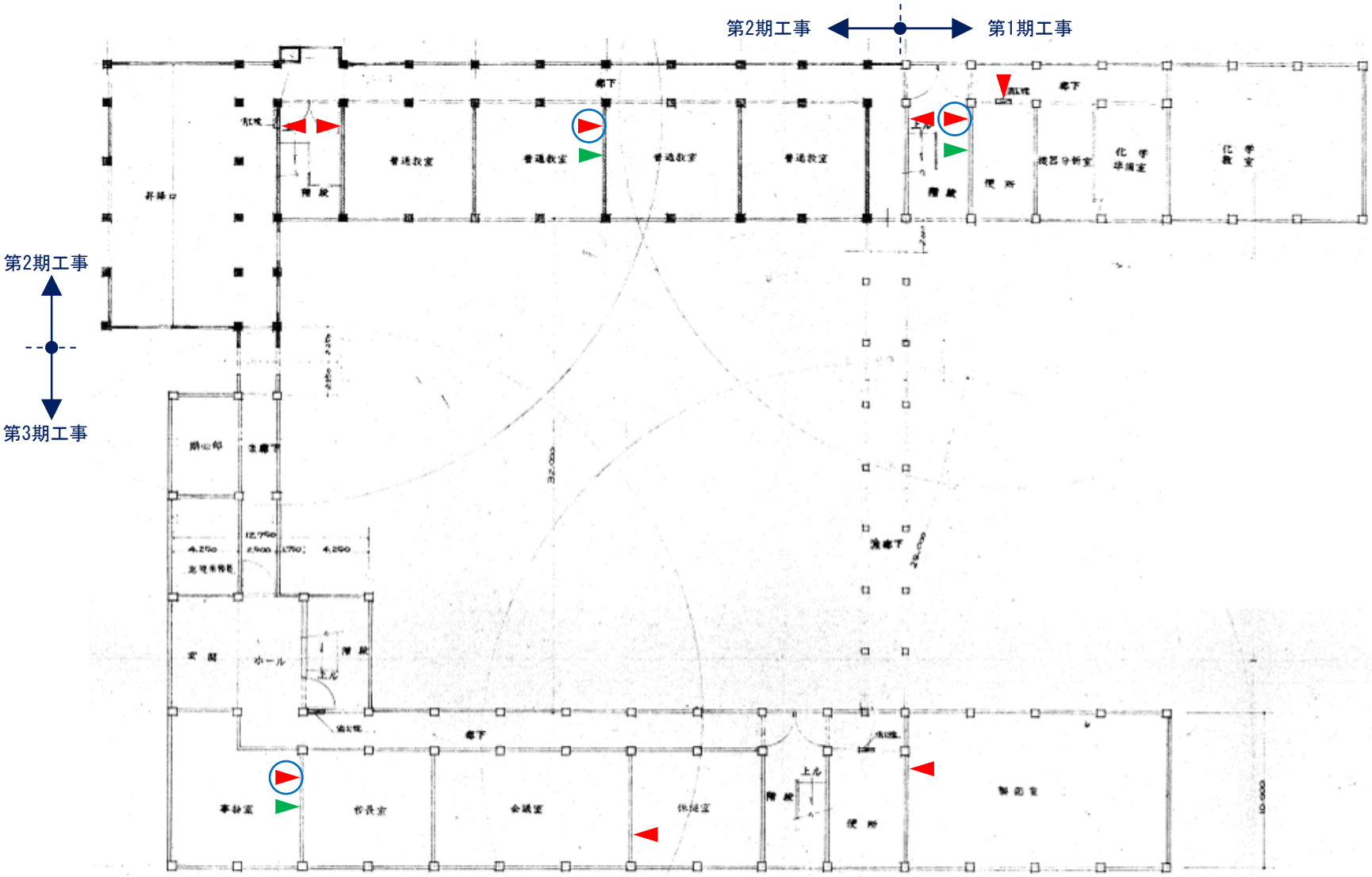
旧気仙沼向洋高校の現地調査状況

＜調査目的＞　建物の現況を把握する資料を得ることを目的とする。
＜建物概要＞　鉄筋コンクリート造、地上 4 階・塔屋 1 階、延床面積 6,769.50 ㎡、昭和 52 年 4 月（37 年経過）
＜調査項目＞　以下の内容、方法、対象にて調査を行い、各調査完了後約 3 週間で報告書作成。

調査項目	調査内容	調査方法	対象
外観被害劣化・ 現況記録調査	建物全体の劣化状況や、津波による損傷等を確認する。	目視	建物全体 目視可能範囲
図面照合調査	現状の RC 壁の配置および開口寸法を確認する。 また、主要な柱梁の断面寸法、壁厚さを確認する。	目視・実測	建物全体 目視・実測可能な範囲
不同沈下調査	オートレベルにより不同沈下の有無を確認する。	レベル測定	各工期 1 フロア X・Y 方向各 1 列 柱近傍床面
鉄筋腐食度調査	壁の鉄筋腐食状態を調査する。	はつり・目視	採取コア箇所付近 合計 6 箇所
コンクリート 圧縮強度調査	現状の構造体コンクリートの強度を確認する。	コア採取法	合計 36 箇所
コンクリート 中性化深さ測定	コンクリートの中性化進行度を調査する。	ﾌｪﾉｰﾙﾌﾀﾚｲﾝ法	圧縮強度試験用 採取コアより実施
コンクリート 塩化物イオン 含有量試験	コンクリート中の塩化物イオン含有量を調査する。	電位差滴定法	圧縮強度試験用 採取コアより実施 3 箇所 6 試料
特記事項	調査範囲は北校舎、南校舎、渡り廊下。調査位置は調査位置図に記載。		

＜調査結果速報＞　平成 26 年 11 月 18 日時点
〇圧縮強度　　設計基準強度 Fc＝210 よりも全て上回っていると思われる。
〇中性化深さ　経過年数 37 年とした場合の中性化深さ 22.7㎜ より全て下回っており、想定より中性化が進行していない。

＜調査位置図　1階＞

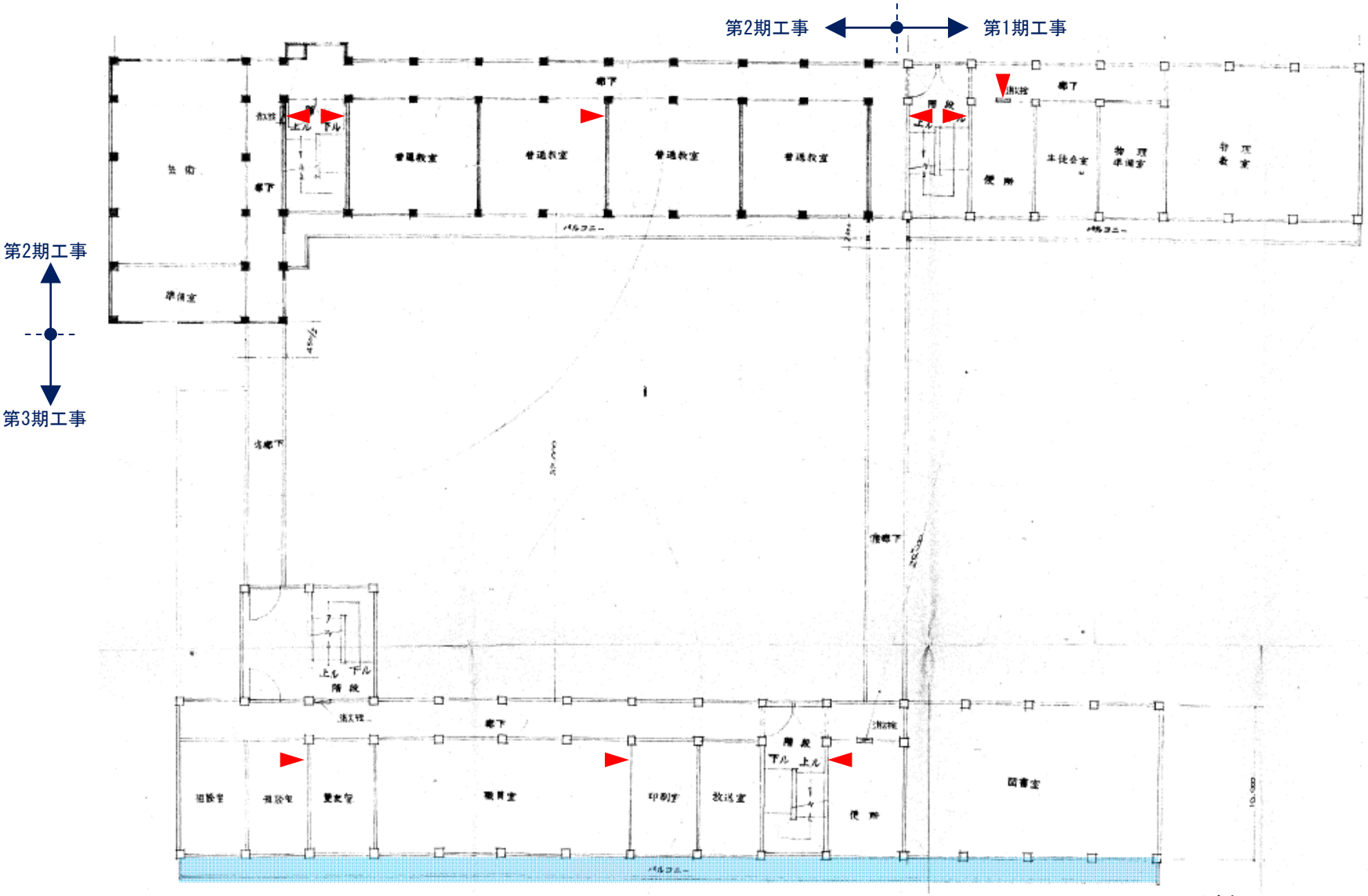


1階平面図

－凡例－

- ▶ ：コア採取位置を示す
- ○ ：塩化物ｲｵﾝ調査位置を示す
- ▶ ：鉄筋腐食度調査位置を示す

＜調査位置図　2階＞



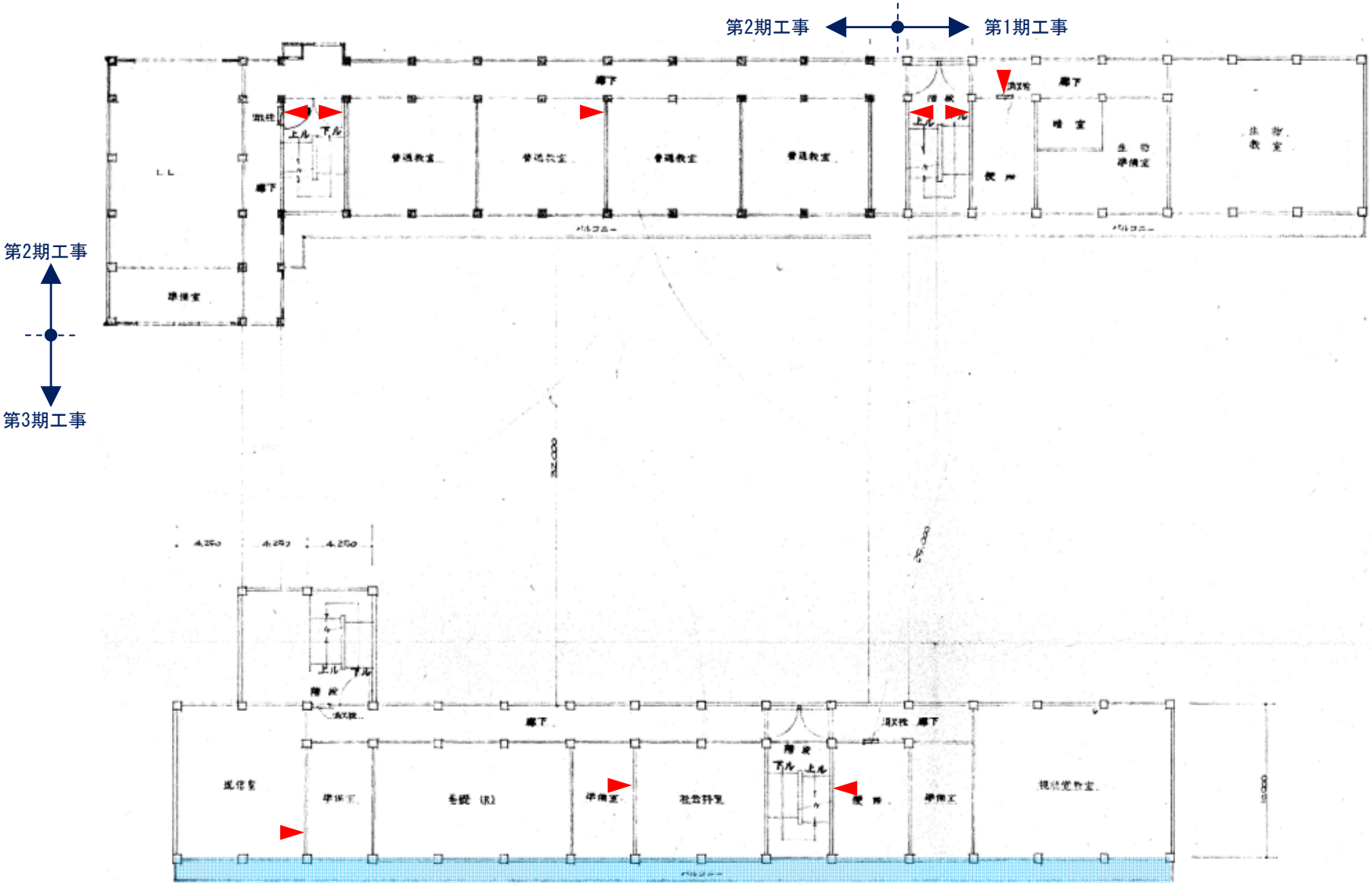
2階平面図

－凡例－

▶　：コア採取位置を示す

▒　：高所作業車による写真撮影範囲を示す

＜調査位置図　3階＞



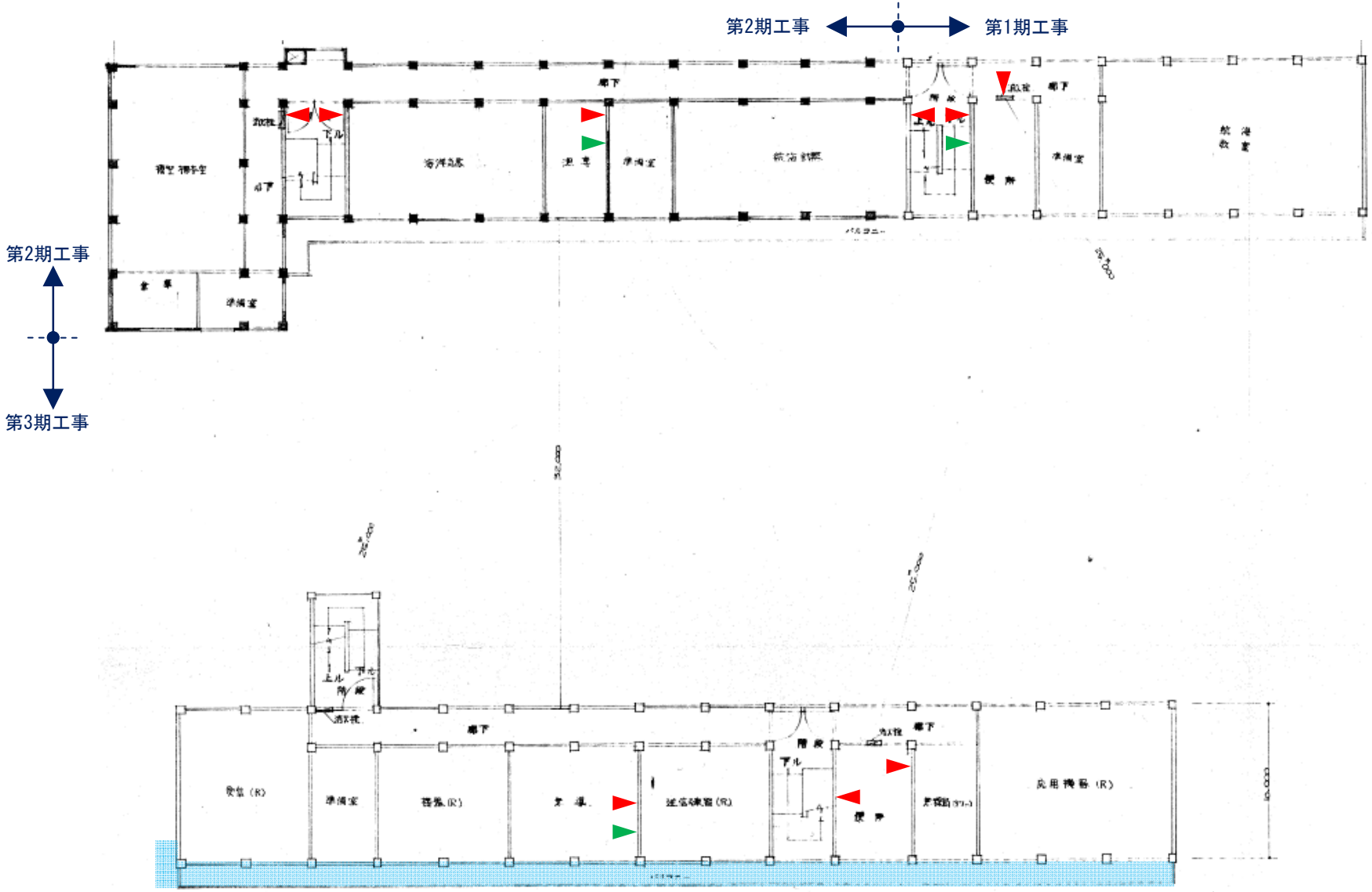
3階平面図

－凡例－

▶　：コア採取位置を示す

▒　：高所作業車による写真撮影範囲を示す

＜調査位置図　4階＞



4階平面図

－凡例－

▶　：コア採取位置を示す

▶　：鉄筋腐食度調査位置を示す

▒　：高所作業車による写真撮影範囲を示す

＜現地調査スケジュール＞

調査項目	10/28（火）	10/29（水）	10/30（木）	10/31（金）	11/1（土）	11/2（日）	11/3（月）	11/4（火）	11/5（水）	11/6（木）	11/7（金）	11/8（土）	11/9（日）	11/10（月）	11/11（火）	11/12（水）	11/13（木）	11/14（金）	11/15（土）	11/16（日）	11/17（月）	11/18（火）	11/19（水）
外観被害劣化・現況記録調査	→	→	→	→				→	→	→													
図面照合調査											→			→	→		→	→	→	→	→	→	
不同沈下調査																→							→
鉄筋腐食度調査	→	→	→	→																			
コンクリート圧縮強度・中性化・塩化物試験	→	現地コア採取	→	→				- - -	- - -	試験場による材料試験	- - -	- - -	- - -	仮報告：約3週間	本報告：約4週間	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -

報告書作成
約3週間